

高崎女子高等学校 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	・高女が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・学校評価アンケートを実施し、実態を把握する。	A	A 生徒(95%) 保護者(94%)	全体の教育活動をみて、コロナ禍の状況でも安易に諦めず、できることを効果的に実施していく。	A	A 生徒(94%) 保護者(94%)	生徒の意見も聞きながらコロナ禍でも工夫して教育プログラムを実施し、刺激を与え続ける。	
	2 科学的探究活動やグローバル人材育成活動に取り組んでいますか。	・学校で実施する各種研修やプログラムに満足している生徒の割合が80%以上である。	・各研修・プログラム終了後のアンケートや学校評価アンケートを活用する。	B	B	コロナ禍ではあるが、オンラインを利用したプログラムを、積極的に導入していきたい。	B	B 生徒(77%)	行事に参加した生徒の評価は高い。学年全体の必修活動にする等、取り組み方について改善を図る。	
	3 外部機関との連携による教育活動の活性化を行っていますか。	・各種講演会や、大学や研究機関、企業を訪問する学習活動の取り組みに満足している生徒が80%以上である。	・ポートフォリオ等を用いて、探究活動の自己評価を参考にする。	・「総合的な探究の時間」の自己評価の数値等を利用する。	B	—	2年の課題研究で県内の大学生・院生によるGooglemeetでの講義を行った。オンラインを通じて大学や研究機関との連携を模索したい。	A	—	行事が3学期に多い。学期のバランスに配慮して、早い時期での意識の向上に努める。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 主体的・対話的な深い学びになる「探究的な学習の時間」(課題研究)を行っていますか。	・協働して、または独自のテーマを設定して探究活動を進めると自己評価している生徒が80%以上である。	・学校評価アンケートを実施し、生徒自らが自己の進路実現のため必要とする学習に取り組んでいるかを調査する。	B	—	各学年とも、Chromebookを利用して課題研究を効率的に進めている。2学期以降の活動も充実させていきたい。	A	A 生徒(90%)	2年生では、フィールドワークの一環として、外部の専門家へのインタビューを課した。Chromebookの活用は継続したい。	
	5 生徒は主体的・対話的な深い学びのもと、確かな学力を身に付けていますか。	・授業に満足している生徒が、80%以上である。	・学校評価アンケート及び学習時間調査により、生徒の家庭学習の状況を把握する。	B	B 生徒(96%) 保護者(78%)	2年、3年では「よく当てはまる」の割合が減り、オンライン授業も実施することになったので、より一層の授業改善を実施していく。	A	A 生徒(94%) 保護者(81%)	生徒への授業アンケートによる各教員の振り返りを行うとともに、授業改善のための校内研修の実施により更なる改善を図る。	
	6 学習内容の定着を図るため、自己が必要とする内容・分量で家庭学習に取り組んでいますか。	・家庭学習について、自らが必要とする内容・分量で取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	・学校評価アンケートにより、シラバスや学年通信の利用状況を調査する。	・欠席連絡票や保健日誌を活用する。	C	C 生徒(89%, 64%) 保護者(84%, 75%)	適した内容と分量の課題が提示されていると感じているが、家庭学習の取組は十分とは実感していない。その実状を解明し、改善を図る。	B	B 生徒(87%, 64%) 保護者(84%, 77%)	課題の提示に対して家庭学習は不十分と感じている原因は、もつとできると思っている事と疲れて取り組めない事に分かれることがわかった。更にその原因をさぐる。
	7 生徒に年間学習計画や考査範囲等を的確に示して、学習意欲を喚起していますか。	・シラバスによって授業進度を理解し、学年通信や教科担当が発信する文書などで、試験範囲や学習のポイントを確認している生徒が80%以上である。	・教務日誌において遅刻者数を調べ、職員会議等で職員全員による状況の把握に努める。	・学校評価アンケートを活用し、その実態を調べる。	B	A 生徒(80%, 93%) 保護者(63%, 90%)	シラバスによる理解は生徒の80%。学年通信や教科担当からの文書を通して確認している生徒が多いが、分散登校・オンライン授業に伴い、より丁寧に確認を行う。	B	A 生徒(80%, 94%) 保護者(66%, 92%)	学年通信の内容は、試験範囲や課題だけでなく、試験範囲における内容のポイントや、学習のポイントなどを今後も継続して掲載していく。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・3日連続で欠席した生徒に適切な対応を行い、関係者で情報を共有する。	・いじめは積極的に認知するとともに、校務委員会や学年会議で情報共有を行うほか、SCとのコンサルテーションを実施する。	B	—	各学年において、連続欠席の生徒への対応を行っている。	B	—	今後も各学年において、担任を中心に連続欠席生徒へ対応する。学年会議等で情報を共有する。	
	9 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・いじめ件数0をめざす。いじめに関しては、早期発見に努め、年2回以上のアンケートを実施する。	・教務日誌において遅刻者数を調べ、職員会議等で職員全員による状況の把握に努める。	B	—	学年団・部顧問・SCを含むいじめ防止対策委員会の連携により、問題の予防と早期発見に努める。2学期以降もアンケートや教育相談週間で生徒の声をすぐに拾いあげ、早期に対応する。	B	—	いじめ件数0にはならなかった。対策委員会等で防止策を考えていきたい。引き続き生徒がいじめを学校に言える体制づくりや、迅速ないじめの認知を行ってきたい。	
	10 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・1日の全校生徒数における遅刻者の割合が、2%未満である。	・学校評価アンケートを有効活用し、その実態を調べる。	・進路希望調査や2者面談を実施して状況確認に努めるほか、学校評価アンケートで状況を教唆する。	A	—	遅刻は少なく、2%を越えることはないが、体調管理の徹底をこれからも継続させていく。	A	—	遅刻者数は少ない。コロナ防止に伴う出席停止の人数が多い。他人に感染させないよう指導している。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11 計画的な指導を行っていますか。	・生徒に本校のキャリア教育の「椎樹プラン」を提示し、そのプランを活用している生徒が80%以上である。	・学校評価アンケートを有効活用し、その実態を調べる。	B	B 生徒(72.3%) 保護者(72.9%)	「椎樹プラン」に沿って、生徒が充実感を得られる進路行事等を積極的に活用するとともに普段の生活の中で、自らキャリア意識を高める工夫を重ねたい。	A	A 生徒(89.4%) 保護者(85.3%)	「椎樹プラン」に沿って、生徒が充実感を得られる進路行事等を実施することができた。次年度に向け綿密な計画を立てていきたい。	
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・自己分析を行うとともに、自分の適性と進路を関連づけて能動的に取り組む生徒が80%以上である。	・進路希望調査や2者面談を実施して状況確認に努めるほか、学校評価アンケートで状況を教唆する。	B	B	定期試験や模擬試験後の生徒面談等の機会を使い、生徒に現状を正しく認識させ、それぞれの進路に対する意欲を向上させる。	A	A 生徒(89.4%) 保護者(85.3%)	定期試験や模擬試験後の生徒面談等の機会を多く持ち、生徒に現状を正しく認識させ、進路に対する意欲を向上させることができた。	
	13 適切な進路情報を提供していますか。	・生徒の将来の希望について理解している保護者が80%以上である。	・生徒、保護者の状況を学校評価アンケートを用いて把握する。	・「学校の新しい生活様式」等を参考に、安全な学校公開などの企画の開催をPTAと連携して検討する。	B	B(79.8%)	各学年の進路通信等を紙媒体で確実に保護者に届く工夫をする。	A	A 生徒(90.5%) 保護者(85.9%)	各学年の進路通信等を利用して進路に関する情報を紙媒体で確実に保護者に届けるようにした。
	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・学校から発信される進路に関する情報を活用している生徒が、80%以上である。	・生徒が活用しやすい情報を発信できるよう話し合いを重ね工夫したい。	・「学校行事や部活動の各種大会結果等を、速やかにwebページに公開する。	B	B 生徒(74.6%) 保護者(73.7%)	生徒が活用しやすい情報を発信できるよう話し合いを重ね工夫したい。	B	B 生徒(78.9%) 保護者(79.7%)	生徒が活用しやすい情報を発信できるよう次年度に向け話し合いを重ねていきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・コロナ禍であるため、録画した動画やオンライン配信等の手段も含め、複数回の授業公開を実施する。	・「学校の新しい生活様式」等を参考に、安全な学校公開などの企画の開催をPTAと連携して検討する。	B	B	メールによる連絡を適時行い、学年PTA集会でも授業をリモートで中継する等の工夫を行う。	B	B	中学生への学校説明会もWeb開催だったが好評であった。何事においても工夫した情報発信を実施していきたい。	
	15 中学校や地域との情報交換・連携を進めていますか。	・webページをこまめに更新し、学校の最新情報を提供する。	・学校行事や部活動の各種大会結果等を、速やかにwebページに公開する。	B	—	学校説明会(今年度はWeb開催)に合わせ、部活動の情報を更新した。定期的な更新を呼びかけたい。	B	B	学校行事に関する情報の更新は随時できた。部活動の各種大会結果の更新をさらに呼び掛けたい。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	16 ICTを活用した指導を行っていますか。	・「学校評議員会」、「学校関係者評価委員会」を年2回実施する。また地元小・中学校との連携を深める。	・中学校の学習支援ボランティアや、小学校のイベントボランティアに参加しやすい環境を整える。	B	—	コロナ禍により「学校評議員会」学校とは学校行事の前に連絡を取り合い連携を深めている。	B	B	第1回の学校評議員会は感染症対応のため開催できなかった。オンラインによる学習支援など、新たな交流・連携の在り方を検討する必要がある。	
	17 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・全ての教師が、ICTを活用した授業を実施する。	・授業アンケートを実施して状況を把握する。	A	A	全職員がオンライン授業を実施しているため、情報交換を実施する。	A	—	全員がICTを活用した授業を実施しており、今後も効果的に研修を実施し情報共有していきたい。	
		・各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化を進める。	・教員を対象とした学校評価アンケートで状況を確認する。	B	B 職員(75%)	75%の職員が、当てはまる以上に回答している。この状況を継続していく必要を感じる。	B	B	各種会議や行事、授業においてクロームブックを引き続き活用していきたい。	